

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名		公園緑地施設管理事業						担当部		都市建設部							
	会計区分		一般会計				事業類型		法定受託系		担当課		みどり公園課					
	事業期間		平成12年度以前				～		平成30年度以降				担当係		花と緑推進係			
	総合計画 分野別計画	主目的	5 都市基盤			27 公園・緑地・緑道			4 市民と協働による公園・緑地・緑道の整備と管理を進める									
		副目的																
	予算区分		款	8		項	4		目	4		大	3		中	1		
	根拠法令・個別計画																	
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)		直接実施・ 運営		54 %				委託		46 %				助成		0 %	
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)		市民にとって安全で楽しく快適に利用できる憩いの場所として公園、緑地を提供できるような管理を行う。															
	内容 (手段)		公園施設の修繕や作業員による維持補修を行うほか、業者委託により維持保守管理を行う。 市職員は、運動場や広場の使用のための許可や電柱やガス管などの占用物の許可や、公園の管理業務と公園や街路樹などに不具合が発生した場合の、現場確認や軽易な維持補修、作業員や業者に修繕を発注し、指示を行うなどの維持業務にあたっている。 【直接経費の内訳】 公園緑地維持補修用人工賃（4,746千円） 講習会等参加旅費(81千円) 需用費(54,780千円) 光熱水費(29,193千円) 修繕料(24,709千円) など 役務費(1,426千円) 通信運搬費、手数料、保険料 委託料(39,171千円) 除草委託、公園緑地設備保守管理委託、公園緑地清掃委託、 小牧山北駐車場管理委託、森林害虫駆除委託、 公園緑地施設長寿命化計画策定委託 使用料及び賃借料(2,511千円) 駐車場用地借上料、下水道使用料、仮設トイレ借上料 公園緑地施設整備用資材購入費 花苗等(5,185千円) 公園緑地施設用備品購入費(780千円) 負担金、補助金及び交付金(187千円) 研修会負担金、日本公園緑地協会等負担金 24年度新規内容 小牧山の景観を確保し、安全で快適に楽しみながら散策できるよう、樹木の更新や維持管理をするため、小牧山樹木整備基本計画策定や樹木剪定委託を行う。															
受益者負担		無																

コスト			単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額	
	費用	直接経費		千円	88,265	79,952	108,871	119,709
		正職員	従事者数	人	1.50	1.50	1.50	1.50
			人件費	千円	7,978	7,978	7,978	7,978
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計		千円	96,243	87,930	116,849	127,687
		対前年比		%		91.3	132.8	109.2
	財源	一般財源		千円	76,463	69,742	95,311	97,825
		国・県支出金		千円	1,252	1,276	5,856	4,856
		その他財源		千円	18,528	16,912	15,682	25,006

業 績	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	修繕件数	件	目標	—	—	—	—
			実績	51	48	50	
	維持補修用作業員	人	目標	—	—	—	—
			実績	285	334	349	
	委託件数	件	目標	—	—	—	—
			実績	23	24	38	
	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	公園緑地が充実していると感じる市民の割合	%	目標	68	68	68	68
			実績	74	71	—	
			目標				
			実績				

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	不具合箇所の早期発見、早期改修により、安全で安心して快適に利用できる憩いの場所として公園や緑地を提供している。		
		事業実施における課題等	管理施設の増加及び老朽化が進んでおり維持管理費用の増加が懸念される。		
		事業を縮小・廃止したときの影響	不具合箇所の改修ができない、もしくは遅れることにより、公園の利用者の安全、安心が確保できず、快適に利用できなくなる。		
	今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持		
		判定理由	現状の管理レベルを維持していく必要であるため。		
		改善案等	都市公園については、長寿命化計画の策定を進めており、それに基づきライフサイクルコストを縮減していく。		

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。